

平成 22 年度 第 1 回安曇野市地域公共交通会議兼地域公共交通協議会 会議概要

1	委員会名	安曇野市地域公共交通会議兼地域公共交通協議会
2	日 時	平成 22 年 5 月 27 日(木) 午前 10 時～午前 11 時
3	会 場	県安曇野庁舎 401 会議室
4	出席者	宮澤会長(市長)、奥山委員、山岸委員(代)、犬飼委員(代)、宮島光義委員 宮島芳保委員、宮坂委員(代)、樋口委員、甕委員、川上委員、松田委員 小平委員、小林委員、会田委員、松島委員、槇石委員、山田委員、安藤委員 宮崎委員、曲淵委員、鈴木委員、小岩井委員、耳塚委員、岡山委員、山口委員(代) 宮井委員、小山委員、遠藤委員、倉島委員、勝野委員(代) 土肥委員、二木委員、務台委員、大内委員、久保田委員、飯沼委員 事務局：小倉、野口、中村／N T T 2 名
5	公開・非公開の別	公開
6	記者	3 人
7	傍聴	0 人
8	会議概要作成年月日	平成 22 年 6 月 4 日

協 議 事 項 等

◎ 会議次第

- 1 開会 (事務局小倉)
- 2 あいさつ (宮澤会長)
- 3 委員の自己紹介
- 4 議事
 - (1) 平成 21 年度事業報告(案)について
 - (2) 平成 21 年度決算の認定について
 - (3) その他
- 5 閉会 (事務局小倉)

◎ 協議概要

安曇野市地域公共交通会議設置要綱第 6 条及び安曇野市地域公共交通協議会規約第 13 条 2 項に基づき、会長が議事進行を行う。

◎ 議事

- (1) 平成 21 年度事業報告(案)について

【事務局説明】・・・資料 1・2・3

- ① 乗り合いタクシー「あづみん(定時定路線を含む)」実証運行及び検証
 - ② 中房線及びあづみ野周遊バスの検証と今後のあり方の検討
 - ③ パークアンドライドの整備
 - ④ 観光客対応や市外移動に関する交通支援策についての検討
 - ⑤ 観光や公共交通サービスに関する情報提供
 - ⑥ その他安曇野市地域公共交通総合連携計画推進に関する事業
- 以上の 6 つの柱で事業推進を図った。

乗り合いタクシー「あづみん(定時定路線を含む)」実証運行及び検証については、利用状況の把握のためアンケート調査を行なった。平成 21 年度の運行状況については年間 84,828 人で運行日数 242 日、1 日の平均利用者数は 350.5 人。平成 20 年度との比較では 1.4 ポイントの低下である。この主な理由は、福祉施設での大口利用者が減ったためと推測される。平成 20・21 年のあづみんの利用は 1 日 350 人前後と平準化している。定時定路線については、年間 5,363 人、1 日の平均利用者数は 22.2 人。あづみんと定時定路線の合計は、1 日平均 372.7 人の利用である。平成 21 年 12 月 25 日には、475 人と 1 日の過去最高利用記録となった。1 日あたりの利用目標人数は 420 人であ

るが、年末年始・年金支給日には非常に多くの利用がある。平成 19 年の運行開始から平成 22 年 3 月 31 日までに 208,805 人のあづみんの利用者があった。平成 21 年 2 月 24 日には利用者累計が 20 万を超えた。登録者数についても 25,545 人で、市民の約 4 人に 1 人が利用登録しているが、事務局としても一層の広報、啓発活動に努め、登録促進及び利用促進を図る。

あづみんの利用者にかかわる男女別内訳では、女性が約 8 割となっている。あづみんの利用料金は、「無料」・「100 円」・「300 円」となっているが、「100 円」の利用者の割合が 33.5%である。このことから、あづみんの利用者の約 3 割が障がい者などと福祉交通として利用されている。平成 21 年度の年間最高利用回数は 902 回であった。あづみんの年代別利用者数は、70 歳以上の利用者が 67.6%である。利用場所では、サティ・安曇野赤十字病院・アヤメシティなどの医療施設や商業施設での利用が多い。あづみんの利用状況については、平成 21 年 6 月と 12 月の 2 回、聞き取りにより利用実態調査を行なった。女性の高齢者の利用が多いこと、利用のほとんどが日常生活の通院・買い物などの利用である。また、「運行されて本当に良かった」と「不満もあるがおおむね良かった」との意見が約 7 割であった。他方、「不満がある」といった意見については、「予約が取りづらい」、「朝の電話がつながりにくい」という理由であった。このような不満については平成 22 年度が実証運行の 3 年目と総括となるので、作業部会などで検討・協議を重ねシステムの改善を検討する。

田沢駅と豊科駅など主要駅間を朝夕 2 往復する定時定路線のアンケート調査結果から、半数以上が女性の利用である。通勤通学に利用している方が多いということで比較的幅広い年代の利用があり、利用者の約半数が毎日利用し、日常的な交通手段となっていることも特徴的である。利用者の評価についても「運行されて本当に良かった」と「不満もあるがおおむね良かった」が約 8 割以上であった。なお、頻繁に利用しない方の意見について郵送によりアンケートを平成 21 年 9 月に実施したところ、2 回以上利用しない理由は、「自家用車が運転できる」、「家族や知人に頼める」といった他の交通手段が確保されているという理由であった。しかしながら、86%の方が他に交通手段がなくなった場合は利用したいとの意向であった。また、1 回のみ利用者であっても、「運行されて本当に良かった」と「不満もあるがおおむね良かった」が約 7 割を占め好評を得ている。未利用者からのアンケートでは、利用しない理由としては「自家用車が運転できる」、「他の移動交通手段が確保されている」である。少数意見として、「利用方法が分からない」、「不安があり利用できない」であり、更にあづみんの利用に係る広報や利用登録の促進を図る。

課題の抽出を行なったところ、利用者の満足度については、料金やサービス面で高い評価を得ているが、苦情・改善要望としては、運行管理しているオペレーター・運転手への接客に対しての苦情、または F A X による予約の受付、時間延長、増便、土・日曜日及び祝祭日の運行についての要望がある。「電話がつながらない」、「予約がとれない」、「乗り継ぎしないで目的地に行きたい」、「電車との円滑な連携を望む」などの課題も寄せられた。これらについても、実証運行 3 ヶ年目の総まとめの年として本年度検討する。

観光交通については、昨年度は域内移動や観光交通の体系化について作業部会等で検討したが、それに先立ち観光ニーズを調査した。「あづみ野周遊バス」及び「中房線バス」で利用実態調査を実施した。平成 21 年 7 月に実施した「あづみ野周遊バス」の聞き取り調査では、観光客以外の利用が約 25%であった。観光客をターゲットとした事業であるが、狙いが不十分と思われる。「あづみ野周遊バス」の情報の入手先が宿泊施設であることが多いことから、事前の P R が不足していると思われる。このような課題を把握しながら、作業部会では観光交通の域内移動の支援策の検討を行ってきた。現状、安曇野市へ訪れる観光客の 9 割は自動車である。そのような観光客に対してパークアンドライドにより駐車場を提供、タクシーの利用によりフリーパス方式で域内を移動、更にサービス利用料金の設定やポイント制の付加等の特典を検討した。しかしながら、ポイント管理システム導入及び維持費の負担等さまざまな課題があり、システムの導入は時期早尚であり見送られた。

その他の取り組みとしては、既存の観光にかかわる交通を体系化した。平成 20 年度から観光振興を図るために公共交通をどうするのか検討を重ねたが、観光と交通を連携するためには観光事業者が主体的に観光交通に参加することが必要である。「上田線」、「あづみ野周遊バス」、「中房線バ

ス」、「安曇野発着ツアー」、「安曇野タクシーツアー」、「観光ガイドタクシー」などの施策を組み合わせる中で市外からの観光客の誘客を図る。

「あづみ野周遊バス」の特徴的な取り組みとしては、クーポン券等の付加価値、駐車場の確保、全区画フリー乗降車可能、料金や運行期間見直し。「中房線バス」は、駐車場の確保し「上田線」との連携を図り市外からの誘客を図る。「安曇野発着ツアー」は、市外の観光会社及び観光協会の協力により魅力あるプランの創設。「安曇野タクシーツアー」については、タクシー事業者による観光ルート別運賃として平成 22 年度での検討事項であるが、予約不要で少人数向けのツアーを計画中である。「観光ガイドタクシー」は、終日ガイド付きによる質の高い旅行の為のプランである。

その他の事業として、平成 21 年度より免許返納者に対して 9,000 円分のあづみんの乗車回数券の配布を行なった。安曇野市の免許返納者は、平成 19 年度は 34 人、平成 20 年度は 73 人、平成 21 年度は 202 人であった。免許返納者のほとんどが高齢者であり、あづみんの運行が高齢者の事故防止となっている。また、平成 22 年度 5 月 1 日より運行開始となっている「上田線」は、北関東からの観光客誘客や市内事業者のビジネス利用を目的としている。

会長： ただ今の提案に対し、質疑を求める。

松島委員： 私が民生児童委員を担当している地域では、昨年からあづみんの利用者が増えている。これは広報等の成果、及びあづみんの利便性によるものと思われる。

安曇野市の県営住宅に住んでいる方の中には、生活困難者及びそれに準ずる方が非常に増えてきていると感じている。また、一人暮らしの高齢者も年々増加している。そのような状況において、あづみんの利用で問題となるのは、電話がない場合である。特に高齢者の場合、携帯電話の操作もできない場合があり、あづみんの申し込みに困っている家庭がある。社会福祉協議会でも、地域の福祉計画を策定中であるが、地域の助け合いが必要であると感じている。

会長： ただ今の提案に対し、質疑を求める。

事務局： 平成 22 年度では、あづみんの総合的な検証を作業部会で実施予定である。その中の検討事項の一つとして、市健康福祉部にも作業部会に参加し、福祉面での交通施策とあづみんと役割分担について検討する。

会長： ただ今の問題提起に対しては、今後の検討課題として対応する。
その他の質疑等を求める。

曲淵委員： 公共交通を利用した観光バス・タクシーについて提案である。岡谷市で「小鳥バス」を運行中であるが、安曇野市でも冬季に白鳥の観察ツアー等の運行を提案する。

事務局： 提案としてお聞きする。

会長： その他の質疑等を求める。
それでは、質問等がないので質疑を打ち切る。
平成 21 年度の事業報告に対し、承認のため拍手をお願いする。
事業報告につきましては、承認をえる。
次に平成 21 年度決算について提案を求めます。

(2) 平成 21 年度決算の認定について

【事務局説明】・・・資料 4

事務局： 平成 21 年度安曇野市地域公共交通協議会決算書については、収入の部では、1. 負担金は予算額 50,325,000 円に対して安曇野市からの負担金として決算額 44,340,043 円。2. 補助金は予算額 30,786,000 円に対して国からの地域公共交通活性化・再生総合事業補助金として決

算 30,786,000 円。3. 諸収入として、予算額 1,000 円に対して預金利息で決算額 199 円。収入合計として予算額 81,112,000 円に対して決算額 75,126,242 円である。

支出の部は、1. 運営費は予算額 2,069,000 円に対して決算額 1,272,240 円。運営費の決算額内訳は、会議費（報償費 402,860 円、旅費 346,250 円、食料費 73,400 円）と事務費（消耗品費 13,713 円、印刷費 88,252 円、通信費 256,456 円、役務費 21,800 円、使用料 4,000 円、手数料 65,500 円、光熱水費 0 円、負担金 0 円）である。2. 事業費は予算額 78,799,000 円に対して決算額 73,854,002 円。事業費の決算額の内訳は、市内タクシー事業者及び社会福祉協議会によるあづみん運行管理委託費として実証運行事業費 69,792,657 円。N T T による調査業務委託、あづみんの看板設置、あづみんのシートカバー購入費として計画推進事業費 4,061,345 円。なお、予備費及び租税公課については、それぞれ支出額は 0 円である。支出合計は、予算額 81,112,000 円に対して決算額 75,126,242 円である。

したがって収入合計 75,126,242 円、支出合計 75,126,242 円で、差し引き残高 0 円である。

会長： 松本地方事務所副所長の宮島監事から監査報告をお願いする。

宮島監事： 安曇野市地域公共交通協議会規約 32 条の規定に基づき 5 月 19 日に会田監事とそれぞれ実施した。平成 21 年度の事業報告及び決算書を金銭出納簿等の各帳簿により確認したところ、ただいま報告がありました決算書のとおり適正に執行されていたことを報告する。

会長： ただ今の決算書について、質問・意見を求める。
質問等がないようですので質疑を打ち切る。
平成 21 年度の決算報告に対し、承認のため拍手をお願いする。
決算につきましては、承認をえる。
その他について事務局から説明を求める。

事務局： 今後の予定として、平成 22 年 3 月に行なわれた協議会で、平成 22 年度予算及び平成 22 年度事業計画が承認されたが、具体的な取り組みについては作業部会または幹事会により運営する。特に、アンケートで提示された課題等の解決が中心となる。平成 22 年は総括の年ということで、福祉部門及び観光部門の協力により作業部会で検討する。また、公共交通の利用促進も同時に進める。

「上田線」の利用状況については、小岩井委員から現在の状況について説明を求める。

小岩井委員： 「上田線」については、5 月 27 日、現在の実績で 29 名の利用がある。上田駅からの乗車が一番多く 12 名。ビジネス利用と観光利用の状況については、ほとんどがビジネス利用である。なお、女性の利用が 16 名であった。利用者からは好評を得ている。今後も、関係者の支援により利用促進に向けた周知を図る。群馬県高崎市、埼玉県大宮市など潜在的な需要を見込んでいる。

会長： ただ今の説明について、質問・意見を求める。
上田駅までの運賃 2,000 円は安価であり、周知不足を感じている。行政としてもより一層の取り組みを図る。商工会や委員の方のご協力をお願いする。また、チラシなどを作製して市民や観光客への周知を図る工夫が必要である。
質問等がないので議事を終了する。